

第1学年8組 社会科学学習指導案

1年8組教室 指導者 今井 裕貴

1 単元名 危機！ツバルの自然環境（オセアニア州）

2 単元の目標

- (1) オセアニア州について学習する中で、ツバルの海拔危機に関心をもち、意欲的に追究することができる。
- (2) オセアニア州の小さな国々が抱える問題について、ツバルの海拔危機を通じ、地球温暖化などの世界的な問題と水質汚染などの環境問題を考察し、自分の考えをもつことができる。
- (3) ツバルの海拔危機について、資料や写真などから現状や原因を読み取ることができる。
- (4) ツバルの海拔危機の学習を通じて、オセアニア州の自然、文化、産業などについて理解することができる。

3 単元の構想

(1) 生徒にかける教師の願い

本学級の生徒はこれまで「地球のすがた」の学習を行ってきた。地球儀や地図帳を使った学習では、国と国との距離を比較したり、面積の大小や人口の増減を調べたりする姿が見られた。しかし、一問一答形式の発問に対しては積極的に答えようとするが、理由を問われると返答できなかつたり、自分の考えを説明できなかつたりする生徒が多い。

抽出生Aはわかることは積極的に発表しようとするが、学習課題をじっくり考えることができない。Aが考えを深めていくためには、物事を繰り返し考察する場面が必要であると考えた。本単元を通じて、授業で得た知識を活用し、考えをまとめ、他者との関わりの中で、自分の考えを深めることができるように願っている。

(2) 教材について

オセアニア州はオーストラリアやニュージーランドといった資源があり、経済力もある国と国土が小さく、資源も乏しい島々の多くの国で構成されている。小さな国々は観光業を中心に国力をつけ、近代化を図ろうとしている。その一方で、環境問題も発生している現状がある。経済と環境の二面性をとりあげることを通じて、オセアニア州の現状をとらえることができると考える。

そこで、本単元では、ツバルの海拔危機を教材として取り上げる。海拔危機の現状や原因を理解し、解決策を調べる。解決策を考えていくなかで、ツバルの問題だけではなく、世界的な問題としてとらえ、自分たちから行動していこうとする態度を育てることができると考える。

(3) 単元について

つかむ段階では、オセアニア州の写真や品物などを提示する。実際に外国の品物を直接目に見ることで、オセアニア州への関心が高まるであろう。そこで、オセアニア州の自然、文化、産業や観光を学習する。その中で、資源や観光を通じたアジアとのつながりやツバルをはじめとする環境問題に気づくことができると考える。

深める段階では、「危機！ツバルの自然環境」をテーマにツバルの現状と対策について学習する。ツバルの自然、文化、産業について学習する。市立図書館の本やインターネットを使っての調べ学習を通して、海拔危機の現状をつかむ。そこで、海拔危機を解決するために、その原因や解決策を調べる。調べを進めるなかで、生徒たちは、海拔危機が地球温暖化の問題が原因だけではなく、近代化による発展も関係していることに気付くであろう。また、最も有効な解決策を考えることで、国力にあった策を見つけ出せるだろう。個々で考えをまとめたあと、解決にかかる時間や費用などの視点を与えることで、その解決策について考える。また、全体に広めることで考えを共有し、多面的な考えを養っていきたい。

生かす段階では、今後のツバルについて考えていく。本単元を通じて、世界の海拔危機に関心をもち、世界的な問題ととらえ、行動していこうとする生徒が育つことを期待する。

4 単元構想図（9時間完了、本時8／9）

教師の支援

オセアニア州を知ろう（3）

- ・オセアニア州の自然を知ろう。

オセアニアはオーストラリアと多くの島々でなっていて、乾燥大陸とも呼ばれているんだね。

オセアニアの国々は火山の噴火でできた火山島とさんご礁の島でなっているんだね。

熱帯の気候や温帯の気候で、さんご礁が綺麗なグレートバリアリーフがあるね。

- ・オセアニア州の産業・文化について知ろう。

オーストラリアは鉱産資源が豊富にあって、小さな島々は観光業が中心だね。また、アジアの国々とたくさん貿易もしているね。

オセアニア州の国々は植民地だったから、キリスト教徒が多い。今はアボリジニの美術やマオリのおどりを復活させているよ。

- ・オセアニア州の観光業について知ろう。

オセアニア州は美しい景観が人気で、リゾート地として発展しているね。

アジアから仕事と観光をしに多くの人に来ていて、移民として生活しているよ。

多くの島々では、国の大きな収入源となっているけど、環境問題があるみたい。

ツバルでは、環境の変化から海面が上昇していて、国が沈む可能性があるみたい。

ツバルの環境には、どのような問題があるのだろうか

なぜツバルは海抜危機なのか考えよう（5）

- ・ツバルの国について知ろう。

島はさんご礁でできていて人口は約1万人、面積が26km²と小さく、海抜は最大4.5mしかない。

産業は、漁業や観光業が中心で、主食はタロイモ。自給自足の生活をしているよ。

財政は、税金だけでは、まかなえず、外国からの援助が多い。日本も資金や技術援助をしているよ。

- ・ツバルの海抜危機の現状をつかむ。

様々な説があるけど、少しずつ海面が上昇していて50年から100年の間に1mくらい上昇し、多くの所が沈んでしまうみたい。

塩害化が起こり、自給自足の生活が難しい。そのため、水が確保できなかったり、農業ができなかったりして、米を輸入しているみたい。

オーストラリアなどに移住する計画があるみたい。だけど、言葉や生活が違うことで、うまく適応できないみたい。

海岸浸食が起こり、マングローブが倒れ、洪水や高潮に弱い環境になっている。また、水質汚染や地盤沈下も起こっているよ。

つかむ

深める

- ・オセアニア州への興味を引き出すために、写真や外国の品物などを提示したり、オセアニア産の商品が多く日本で売られたりしていることを紹介する。

- ・地理的事象について多面的に考えるために、複数の資料を比較しながら、オセアニア州についての特徴を読み取るように指示をする。

- ・小さな島々からなる国々が環境問題に直面している現状を知るために、オセアニア州の観光業を取り上げる。

- ・ツバルの地形や人口の密集地、環境問題が起こっている場所を知るために、白地図に色分けしながら書き込む。

- ・オセアニア州にあるツバルの海抜危機の現状を知るために、海面上昇に関連するDVDを視聴する。

- ・海抜危機の現状を知るために、資料や図書館の本、インターネットを使って一人調べを行う。

- ・ツバルの海拔危機の原因を知る。

地球温暖化の影響があるみたい。温室効果ガスで、氷が解けて、海面を上昇したことが、海拔危機の原因になったみたい。

近代化したことで、都市に人口集中し、生活排水やごみ問題が発生し、水質や土壌が汚染され、地盤沈下が起こったみたい。

- ・ツバルの海拔危機を解決する策を調べる。

ツバルの現状を世界に知らせ、国連や世界各国と協力して地球温暖化対策を積極的にやってもらおう。

近代化によるごみ問題や環境の変化が地盤沈下の要因だから、日本の処理技術を教えて、改善しよう。

マングローブを植えて、自然の防波堤を作り、塩水が入らないようにして、農業をできるようにしよう。

有孔虫を育て、島全体の砂の量を増やし、自然の機能を改善することで、海拔危機を解決しよう。

海拔危機の最も有効な解決策を話し合おう (本時)

京都議定書やCOP21などで、対策をしてもらっている。その結果、多くの国から資金や技術援助を受けている。時間はかかるけど一番にやるべき。

ツバルの人はごみの分別や処理の仕方を知らなかったために、水質汚染になってしまった。講習をして、しっかりとした処理場があれば、時間をかけずにできる。

マングローブを植えていくことは、浸食を防ぐことができ、自然災害にも効果がある。植樹してからの時間はかかるが、ツバルの現状には一番効果がある。

海岸の環境が改善していけば、5年で海面上昇の速度に追いつくことができる。また、有孔虫を育てるには場所をとらず、費用もあまりかからない。

ツバルのこれからについて考えよう (1)

- ・海拔危機に瀕しているツバルの今後について考える。

海拔危機はツバルだけの問題ではなく、世界が抱えるべき問題として世界に発信していくべきだ。ツバルの環境が解決することは世界の環境問題を解決につながる。

ツバルは人口も面積も技術も少ない。だからこそ、この環境を守る技術で産業をつくり、環境と発展を両立させ、持続可能な社会の先進国として、自立していくといいと思う。

ツバルの海拔危機は、さまざまな原因があり、解決するためには、世界の国々の協力が必要だ。

※抽出生Aが自分の考えに自信をもたせるために、朱書きや対話で支援する。

- ・ツバルの海拔危機の解決策について全体で共有するために、各自の調べを発表する場面を設定する。

- ・解決策の有効性を考えるために、解決にかかる時間、費用、ツバルができることを基準に自分の考えをまとめるよう指示を出す。

- ・多面的な調べや考えを引き出すために、座席表を活用する。

- ・聞いている人にわかりやすく伝えるために、考えの根拠を資料から明確にするように指示をする。

- ・ツバルが抱える問題には、世界的な問題と地域的な問題があることに気づくために、ツバルができることとできないことを分類する。

授業で得た知識を活用し、考えをまとめ、他者と関わる中で、自分の考えを深め、語ることのできる抽出生A

深める

生かす

5 本時の学習（本時 8 / 9）

（1）目標

- ・ツバルの海拔危機の解決策について、最も現実的な解決策を考えることができる。

（2）過程

1 ツバルの海拔危機の解決策を確認しよう（10分）

- ツバルの海拔危機の解決策を確認する。
 - ・ツバルの現状を世界に広め、地球温暖化の対策を積極的に進めてもらう。
 - ・ごみ問題や環境の変化が地盤沈下の要因だから、日本の処理技術を教えて、改善しよう。
 - ・マングローブを植えて、自然の防波堤を作り、塩水が入らないようにして、農業をできるようにしよう。
 - ・有孔虫を育て、島全体の砂の量を増やし、自然の機能を改善することで、海拔危機を解決しよう。

2 海拔危機の最も有効な解決策を話し合おう（35分）

- 全体で解決策について話し合う。

ツバルの現状を伝え、国連や世界各国と協力していけば、他国の支援や技術を援助してもらうことができる。時間はかかるけど、資源の乏しいツバルでも成長していける。

まず、水質と土壌を改善しなければ、どんな政策をしても意味がない。分別の仕方や廃棄物の処理の技術を学び、人材を育成すれば、時間はかかっても問題は解決できる。

マングローブの植樹は自然の防波堤として、海岸の浸食を防ぐだけでなく、高潮や洪水を防ぐこともできる。時間はかかるが、ツバルで植樹後、維持していくことができる。

有孔虫を育成して、自然の機能が改善すれば、5年で海面上昇の速度に追いつくことができる。また、費用もかからず、育成する場所もあまり必要としないから、ツバルに向いている。

3 本時の学びを振り返ろう（5分）

- 気づきや感想を学習プリントにまとめる。
 - ・ツバルの海拔危機を解決するには、さまざまな解決方法を同時に行っていく必要があるね。

教師の働きかけ

- ・本時の学習課題にせまるために、前時のツバルの海拔危機の解決策を確認する。
- ・最も有効な解決策を考えるために、解決にかかる時間、費用、ツバルができることを基準に話し合いをする。
- ・多面的な調べや考えを引き出すために、座席表を活用する。
- ・聞いている人にわかりやすく伝えるために、考えの根拠を資料から明確にするように指示をする。
- ・考えを深めることができるようするために、メモをしながら聞いたり、質問したりする。
- ・本時の話し合いを通じて、ツバルの海拔危機の解決さくについて、考えをまとめる時間を設定する。

（3）評価

- ・ ツバルの海拔危機の解決策について、他者の考えを聞き、考えを深めることができたか。（追究の様子・発言）